第1章 交流活動モデルメニューの作成にあたって

#### 1 趣旨

遊びを中心とした幼稚園、保育所(園)の生活から、教科学習が中心となる小学校の生 活へのなめらかな接続を図る必要があります。子どもの育ちや学びの連続性を確保する観 点から、幼稚園、保育所(園)と小学校が、互いに保育や授業を参観し合ったり、交流し たりすることを通して思いや目的を理解し合うことが大切です。

そこで、幼稚園・保育所(園)と小学校の相互のねらいや指導内容を踏まえ、幼稚園・ 保育所(園)と小学校の子ども同士、教職員間で活発な継続的な交流活動を行っていくた めに、モデルメニューを作成しました。

また、幼稚園、保育所(園)は、いずれも幼児期の子どもを対象として、教育・保育を 行っていく施設です。幼稚園と保育所(園)とが連携することで、子どもの多様なかかわ りや子どもの発達段階を踏まえたより充実した教育を行っていくため、子どもたち同士の 触れ合う機会を設けるなど幼稚園と保育所(園)の活発な継続的な交流活動を行っていく ために、モデルメニューを作成しました。

※ この「モデルメニュー」は、全て行わなければならないものではなく、モデルと して各施設間で実施するものを選んだり、独自の取組を考えるための参考としてもら うためのものです。

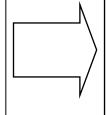
# 2 交流活動実施までの流れ

## 前年度

(1月中旬)

幼保小連携実務者会議開催 (中学校区毎)

> 『モデルメニュー』を参 考に交流活動を協議し、 活動内容を決める。



(2月)

- 各園、学校の年間計画 に組み込む。
- 子育て支援課に交流活 動計画書を提出する。



### 交流活動実施年度

(4月~~2月)

幼保小連携会議開催

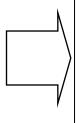
(中学校区毎)

指導方針等の理解や入学児 童の情報交換を行う。

· 幼保小 · 幼保交流活動開始 交流活動

保育、授業参観

合同研修 など



2

(3月)

幼保小連携会議開催

(中学校区毎)

1年間の取り組みについての振り返りと 次年度の交流活動計画を作成する。

(4月)

- 子育て支援課に交流活動報告書を提出する。
- ・子育て支援課が交流活動実践集を作成する。

## 3 交流活動の進め方

幼稚園・保育所(園)・小学校の互いの間に築かれた共通認識をもとに、交流活動中はも ちろん、事前・事後においても協力した体制をとることにより、連携の取組を一層充実さ せましょう。

## 【事 前】 効果的な指導のための協力した体制の確立を目指す

- ① 目標を明確化する。
- ② 学びや成果を見取る観点から関わりの手立てを具体化する。
- ③ 活動や環境構成を工夫する。
- ④ 効果的な役割分担を行う。
- ⑤ 意欲や意識付けや見通しを持たせる取組を行う。

## 【活動中】 異校種の子どもを意識して協力した指導を行う

- ① 交流活動を通して、幼児、児童の理解の場や、研修の場となるよう工夫する。
- ② 幼稚園・保育所(園)と小学校の双方の先生が協力した指導体制を工夫して実施する。
- ③ 教師の幼児・児童への意図的なかかわり方を工夫する。
- ④ 幼児・児童の発達段階を意識した指導を行う。
- ⑤ 安全の確保に留意する。

## 【事後】 合同で振り返る場を設定する

- ① 交流活動での子どもの様子を振り返る。
- ② 目標の達成についての評価を行う。
- ③ 次回の交流活動の見通しを持つ。